



2021/05/28 道東

「北まるnet」登録者増加

かかりつけ医や持病など記録 救急搬送に活用



スマートフォンでテスト用の画面にアクセスする救急隊員 20年9月撮影

昨年10月から半年で700人

北見市医療福祉情報連携協議会が運用し、事前に登録された高齢者や要介護者の情報を関係機関が共有するシステム「北まるnet」の登録者数が伸びている。昨年10月に北見市内の全ての消防救急隊が、救急搬送時などに登録情報を活用するようになったことがきっかけとみられる。

(先川ひとみ)

「北まるnet」は市内に住む65歳以上の高齢者や要支援・要介護認定者が主な対象で、かかりつけ医や住所、緊急連絡先、持病や服薬などの情報を事前に登録しておく。

消防が救急搬送時などに「北まるnet」の情報を活用しはじめたのは14年。北見地区消防組合消防署西出張所がタブレット端末1台を使って、試験導入した。昨年10月からは本格運用を始め、市内のすべての救急隊が利用するようになった。

た。これまでは、救急搬送時に患者の意識がないためにかかりつけ医が分からず、搬送先の病院がなかなか決まらないこともあったが、このシステムを使うと、救急隊員や医療従事者が必要な情報にすぐにアクセスできる。

本格運用を機に、市内の地域包括支援センターやケアマネジャーなどが登録を呼び掛けたところ、昨年9月には1180人だった登録者が翌10月には1292人に。その後も順調に伸び、今年3月には1980人と半年で約700人増加した。以前は、年間100人前後しか増えていなかったという。

協議会の田頭剛弦システム構築専門部会長は「今後は要介護認定を受けていない高齢者や1人暮らしのお年寄りの登録も増やしたい」と話す。登録は、最寄りの地域包括支援センターなどで受け付ける。